

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2775600584
法人名	株式会社 紀泉商事
事業所名	グループホーム「虹」
訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクチブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2775600584
法人名	株式会社 紀泉商事
事業所名	グループホーム「虹」
所在地	大阪府泉南市新家6001番の3 (電話) 072-482-1900

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年9月29日

【情報提供票より】(20年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000~43,000円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(7月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中谷病院 白井病院 まつだ眼科 坂本歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「虹」は阪和線新家より徒歩10分の距離にあり豊かな自然に囲まれ広い庭とリビングをそなえたホームである。共用空間はゆったりとして1号館2号館の間を自由に行ったり来たり出来る造りになっている。経営母体は紀泉商事でありグループとして中谷病院、ディサービス、プランセンター、福祉用具貸与等の事業を展開している。なかでも中谷病院はすぐそばにあり夜間の緊急対応や入院、リハビリ、往診ときめの細かい適切な医療を支援している。この為利用者並びに家族、職員に安心感を与えている。理念として「一人ひとりを大切に 尊厳と思いやりの心で 自立支援を地域の中で」とかかげ利用者の人格を尊重して地域社会の中で質の高いサービスを提供できるよう日々努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題は①理念に「地域密着性」を打ち出すように②夜間の防火体制として地域との連携の2点が求められていた。①については職員と話し合いをもち改善された。②について運営推進会議等で自治会会長と話し合いがもたれ踊山区楠台自治会防災会との連携ができて改善された。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 勤務の関係で全職員と話し合うのは困難であるが可能な限り職員の意見を聞き最終的に管理者がまとめる方法にて自己評価が行われている。スタッフミーティングや運営推進会議で改善点を話し合いより良いサービスが出来る様取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 泉南市介護課、地域包括支援センター、自治会長、利用者並びに家族、法人代表、管理者の出席の下2ヶ月に一回、サービス提供内容及び活動状況を報告し家族の要望や希望を可能な限り取り入れている。当会議において外部評価での問題点も改善され、また利用者の担当者ごとの家族談話で家族の希望を取り入れた絵手紙、折り紙教室のボランティアも発足した。
重点項目③	窓口に意見箱を設置しているが大半の利用者については家族の訪問が多いので細事に亙る話にも耳を傾けている。年2回大きな行事の開催に合わせ家族会も開催されるので利用者の担当者ごとの家族と交流を持ち運営改善の手がかりを得ようと努力されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 新興住宅地が多い為昔ながらの行事はあまり無いが自治会にも入会し老人会の演芸会にも招待されている。また以前は小学生に依頼され利用者が戦争の体験話をしたこともあり、地域ボランティアの受け入れも積極的で絵手紙、歌体操、折り紙教室を通してふれあいをもち地域との交流を目指している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「一人ひとりを大切に 尊厳と思いやりの心で 自立支援を地域の中で 」とかかげ地域住民との交流のもとでサービス提供が出来る様日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意識づけができるよう、よく目に付く玄関の入り口に提示されている。いつも尊厳をもって自立支援が出来るように理念の実践に向け職員会議の席だけでなく日常のケアの中で自然に話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており行事の際には連絡をうけ老人会の演芸会に招待を受けている。またスーパーへ買い物に行ったり散歩時に近隣住民と出会えば挨拶を交わし、ボランティアの受け入れによる各種教室を介しての交流も図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員に伝え外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成しスタッフミーティングなどにかけて話し合いをしている。また運営推進会議にも提出し改善にむけてメンバーで具体的に検討し実践に向けた努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今迄すでに9回実施され関係者出席の下、外部評価の結果を報告し参加メンバーからの質問、意見、要望をうけている。当会議によって改善策が見出されボランティアも紹介される事となった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の来訪の折、相談ごとにもってもらっている。また市の介護課や地域包括支援センターの職員とも事業所の実情やサービスについて折にふれて伝え、質の向上に向けて取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時には利用者の様子や健康状態並びに預かり金の金銭出納収支状況を報告している。また3ヶ月に1回ホーム便りを発行し利用者の近況や暮らしぶりをつぶさに伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に家族の来訪時あるいは家族会、運営推進会議の折に出された意見や要望は前向きに受け止めている。特に年2回、家族と担当者ごとの丁寧な話し合いがもたれ運営に反映されるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者全員を職員全体でケアするシステムをとっている。また、1. 2号館が同一階にあり普段から自由に入出りできるようにしているので利用者は職員の移動や離職によるダメージを受けることが少ないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市社会福祉協議会およびグループホーム協議会からの研修案内により、各職員を交互に受講させている。他の職員には報告書を回覧し研修内容を共有している。新規採用者にはOJTで研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉南市のグループホーム協議会に参加し年1回程度であるが相互訪問研修を出来る限り受け入れている。また泉佐野市のホリ、栄光園と親しく交流し事業者同士協同しながらサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	殆どの利用者は系列の病院およびデイケアセンターを経由しているため職員やホームの雰囲気は周知している。ホームとしてはさらに家族とも十分話し合い、過去歴、現況等も把握し本人が納得してサービスを利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に対し清掃、調理などのできる事の支援につとめている。利用者の中には華道の先生や園芸、野菜作りなどで力を発揮し職員も人生の先輩として学ぶ事が多く共に支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の大まかなスケジュールは決めているが、利用者の思いを優先して柔軟に対応している。本人の希望、意向は毎日の生活の中から常に把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとの担当者が園内会議で意見を述べたり申し送りの中で見直しをしたりしながら本人の希望、意向を中心に家族や主治医の意見をもとに職員が話し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月毎に見直すことになっているが、毎月開く職員会議での話し合いで変化があれば本人、家族、主治医その他の関係者と話し合い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院送迎、外泊の援助、季節の変わり目での衣類や荷物の入れ替え等家族に代わって援助している。本人や家族の状況に応じて柔軟に対応し個々の満足度を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望によりかかりつけ医への受診には管理者が付き添って適切な医療を受けられるよう支援している。殆どの利用者はホームの母体である中谷病院ほか坂本歯科、白井病院等で本人、家族とも納得の上受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人が重度化した場合、終末期のあり方について本人、家族とも話し合い文書を交わしている。医師、全職員共に方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳と言う事を最大限に考慮して一人ひとりに応じた対応を心がけている。また個人情報の取り扱いも職員に周知徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	殆どの利用者はホームでの日課に沿った生活が営まれている。しかし、入浴、や散歩、あるいは買い物等は個人差がありその人ごとの希望、意向に柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から購入しレシピにそって各ユニット毎に調理している。週1回は利用者の希望を入れ、元気な利用者と一緒に食材購入、調理、後片づけ等一緒に行っている。食事は職員も一緒に、さりげなく世話をしながら同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日(月、火、木、金)午後1:30~3:30頃まで自由に入れる。回数、時間はそれぞれの好みに合わせて入れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、手芸、カラオケ、生け花、菜園作りなど、楽しみ事が多くそれぞれの特技を生かせる場を作っている。採れたスイカや野菜が食卓にできることもある。併設のDIYハウスへも出かけて川柳やパソコン等も楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は地域内の公園に出かけ家族の訪問時は時折家族と同行する事もある。紫陽花の季節にはお寺迄見学に行き、また近所の馴染みのスーパーへ買い物に出かけ楽しみごとの一つとして気分転換となっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット間は自由に入出入りできるようになっている。玄関は施錠しているが職員は鍵をかけないケアの必要性を理解している。万一の危険を考え、家族の了解も得て中からはボタン操作で開けるようにしている。外出願望の利用者にはそれとなく支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導により消化と避難の訓練を行っている。災害が起こったときには地域の警察、消防の他自主防災組織からの救援体制もできあがっている。運営推進会議にて話し合いをもち地域の協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者が持ち込む食材はカロリー計算や栄養バランスを考慮したものであり、職員が毎食後摂取量をチェックし日報に記載している。異常があれば母体の中谷病院の看護師や医師の指導を仰ぐ。水分補給は食事の他10時、3時、就寝前に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はどれもゆったりしていて明るく、清潔で安全である。特に居間、食堂は広々としていて、広い窓からの外は森や山が近く、季節の移ろいが実感できるスペースである。体操をしたり、ソファーでくつろいだり、居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には便利のよい大きなクローゼットが設置されている。ベッドや調度品は使い慣れたものを利用者が持ち込み、家庭的な雰囲気と落ち着きを醸し出し、居心地よく過ごされるよう工夫されている。		